

47 都道府県技士会の仕事と家庭の両立活動に関するアンケート結果報告

熊切こず恵

社団法人日本臨床工学技士会 Y・ボード委員会 男女共同参画担当

【要旨】

近年、我が国において、働きながら容易に子供を産み育てることが可能な雇用環境の整備は喫緊の課題といわれている。この課題は我々臨床工学技士においても例外ではなく、当会会員では約3割を女性が占め、その割合は増加傾向にあることから今後取り組むべき課題であると考え、これまでアンケートの実施、ワークショップの企画、学会会場への託児ルームの設置や意識啓発活動を行ってきた。今回は、47都道府県技士会を対象に仕事と家庭の両立活動に対するアンケート調査を実施した。現在、47都道府県技士会において男女共同参画に関する活動を行っている技士会は少ない結果であった。しかし、会員対象のアンケートでは、育児休暇制度や託児室、指針の策定など両立に対する具体的な支援を望んでいる割合が多いことから、会員のニーズと現状に見合った活動をしていく必要がある。

I. 背景

近年、私たちを取り巻く社会経済情勢は大きく変化してる。グローバル化が急速に進み、世界との距離が縮まる中、私たちは、少子高齢化や地球環境問題の深刻化、世界的な食糧・資源・エネルギー供給の逼迫など、これまで経験したことのない大きな課題に直面することが指摘されている。中でも少子高齢化においては先進諸国の多くの国が人口の置換水準以下を示している(図1)。この少子化のトレンドは1970年代から急速に進み、1980年代より各国でさまざまな政策が行われたが、日本は先進諸国の

中でも出生率および女性の労働力率が極めて低い水準である。また、UNDP「人間開発報告書(2007年)」によれば、教育によってその国の基本的な人間の能力がどこまで伸びたかを示すHDI(人間開発指数) < Human Development Index > は日本国は177ヶ国中8位と、高水準の教育を受けているにも関わらず、その国の政治および経済への女性の参画の程度を示すGEM(女性社会参画指数) < Gender Empowerment Measure > は93ヶ国中54位(2002年の32位から大きく後退している)と、他の先進諸国に比し女性が政治経済活動に参画する機会が不十分であることが指摘されている(図2)。日本は

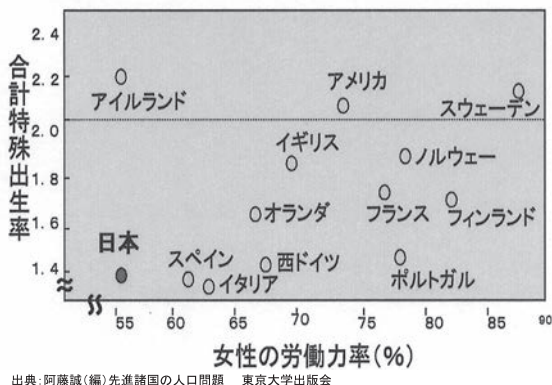


図1 女性(24~34歳)の労働力率と出生率の国際比較

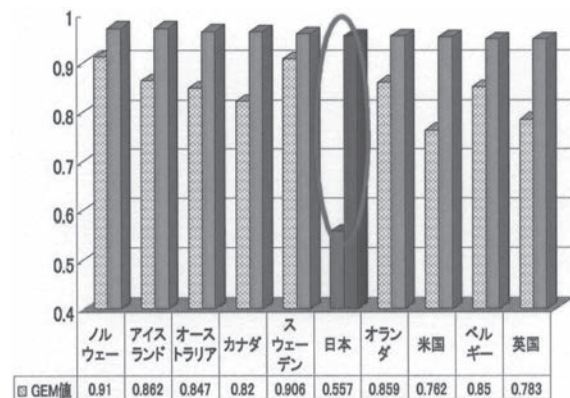


図2 HDI値とGEM値の国際比較

世界で最も少子高齢化が進行している国の一つであり、厚生労働省の推計によれば2030年までに労働力人口は1070万人減少するとされているが、他の先進諸国に比べ女性の活用は進んでいない。しかし、見方を変えると女性の潜在労働力（育児を機に退職した者等）の活用によりある程度の労働力を補える可能性があることも指摘されているため、定着率の増加、離職者の再雇用、高齢者の活用は今後の重要な課題の一つであると言える。

この課題は、我々臨床工学技士においても例外ではなく、日本国における一つの職業としても、また養成校では約半数、当会会員では約3割を女性が占め、その割合は増加傾向にあることから職能団体である技士会では今後取り組むべき課題であると考え、これまで(社)日本臨床工学技士会 Y・ボード委員会ではアンケートの実施、第19回日本臨床工学会でのワークショップの企画¹⁻⁵⁾、学会会場への託児ルームの設置、メルマガ「わいぼーど」や47都道府県 Y・ボードメーリングリストを用いた意識啓発活動を行ってきた。今回は、47都道府県技士会を対象に仕事と家庭の両立活動に対するアンケート調査を実施したので報告する。

II. 方法および回収結果

平成21年11月、47都道府県臨床工学技士会を対象に、郵送にて送付後FAXにて回収した。有効回収数は47、回収率は100%であった。

III. 概要

問1、現在の正会員の人数を教えてください。に対し、男性は76% (8817名) で女性は24% (2746名) であった (図3)。

問2、現在の技士会の役員 (理事) の人数を教えてください。では、全体 14.4 ± 4.4 (人)、男性 13.4 ± 4.1 (人)、女性 1.0 ± 1.0 (人) であった。また、女性の役員割合は全体の 6.8 ± 6.2% で、女性の役員が0名は16都道府県であった (図4)。

問3、現在、女性の理事のいる技士会のみお答えください。女性の役員の役職を教えてください。では、女性理事のいる31都道府県のうち、三役に女性がいる県はわずか2県であった (図5)。

問4、仕事と家庭の両立や男女共同参画に関する活動を行っていますか? に対し、“はい” 21% (10

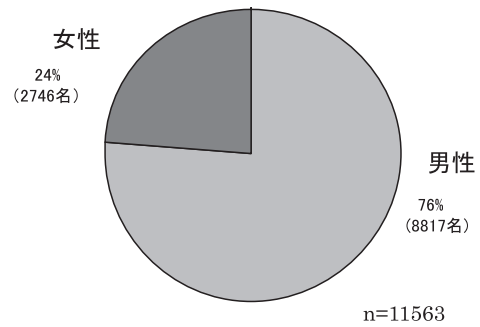


図3 現在の正会員の人数を教えてください。

全体	14.4±4.4(人)
男性	13.4±4.1(人)
女性	1.0±1.0(人)
(女性役員割合)	6.8±6.2%

女性理事の人数

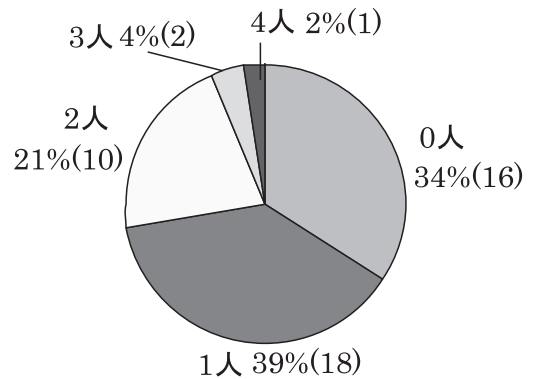


図4 現在の技士会の役員 (理事) の人数を教えてください。

女性理事のいる県：31 県
 会長 0 県
 副会長 1 県 (石川県)
 事務局長 1 県 (徳島県)

その他	
Y ボード NextG 事務局長	監事
編集委員	副事務局長
学術担当理事	福利厚生委員長
事務局補佐	会計
外部理事	広報部長
地区代表	女性部会長
教育委員会兼代謝部会長	調査委員長
働きやすい環境づくり委員長	
ネットワーク委員長	Y ボード委員長
教育委員長	
血液浄化部部門リーダー	学術・地区理事

図5 現在、女性の役員 (理事) のいる技士会のみお答え下さい。女性の役員の役職を教えてください。

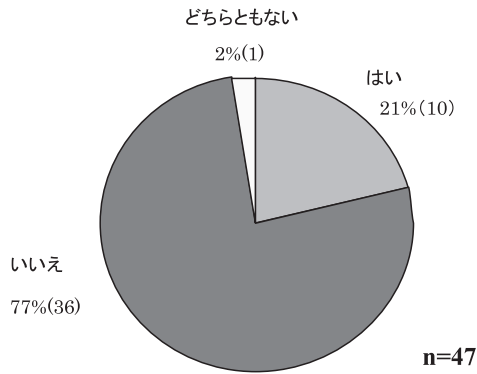


図6 仕事と家庭の両立や男女共同参画に関する活動を行っていますか？

- ME のあらゆる分野の活動に参画する機会は確保されていると思うが女性の出席者が少ない
- 運営が難しく、人員が足りない
- 現状では活動していないが検討の必要があると思っている
- 自身が大学院博士課程に進学している状況などを会の記事に掲載している。(子供が2人いる)
- 女性会員が少ないため女性の役員もいない。今後女性役員を立てる予定。
- 女性に対してではなく、会員を対象として顧問弁護士を設置しそれに合わせて相談窓口を開設した。
- 必要性を感じたことがなく、会員からの要望もないため。
- 現在そこまで要望がなく、検討されていない。今後は必要。
- 問題を把握していない
- 十分な議論がされていない
- 女性会員の年齢層が若いためか両立の必要性が少ない。
- 今後の検討内容としている。

図7 仕事と家庭の両立や男女共同参画に関する活動を行っていますか？ “いいえ” の理由

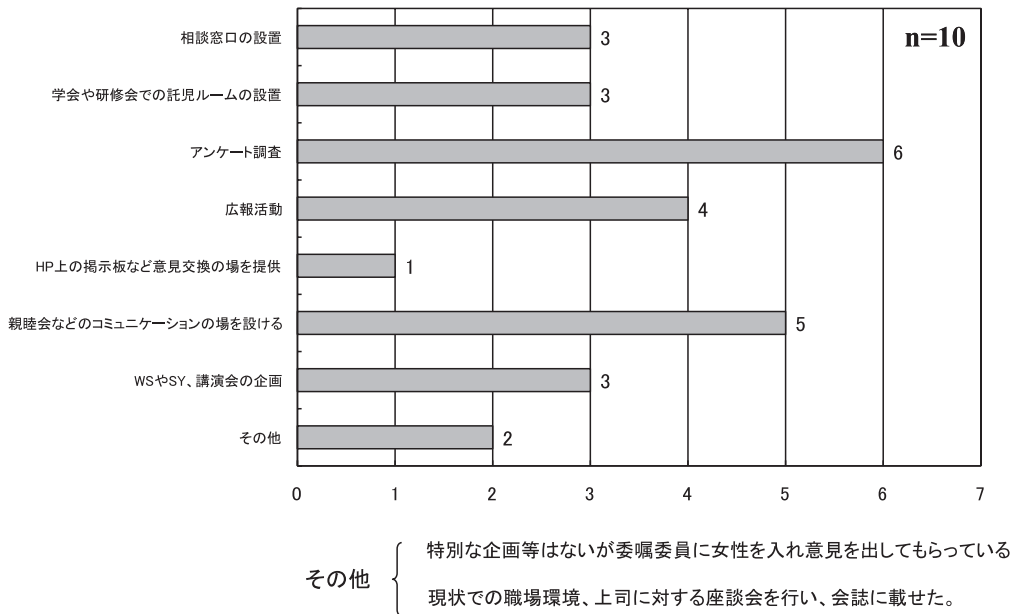


図8 問4で“はい”と答えた技士会においては、どのような活動を行っていますか？

	活動項目数	女性理事人数
栃木県臨床工学技士会	6	1
千葉県臨床工学技士会	6	2
東京都臨床工学技士会	5	2
群馬県臨床工学技士会	3	2
社団法人神奈川県臨床工学技士会	2	0
社団法人静岡県臨床工学技士会	2	2
徳島県臨床工学技士会	1	1
社団法人岡山県臨床工学技士会	1	1
社団法人秋田県臨床工学技士会	1	1
福岡県臨床工学技士会	1	4

n = 10

図9 仕事と家庭の両立の活動と女性理事の人数

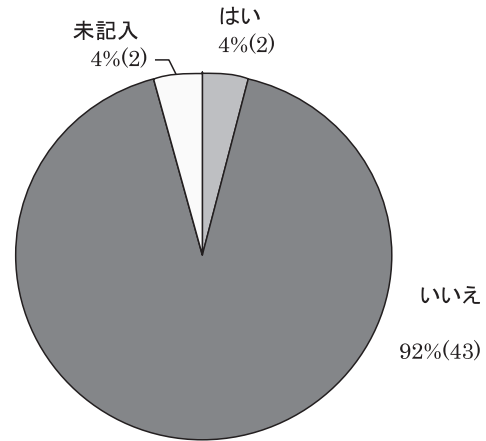


図10 女性部会等の女性のための組織はありますか？

「仕事と家庭の両立」は女性だけの問題ではないと思う。会員全体の環境整備が大切では

Yボードだけでは対外的に弱い部分もあると思うので、看護協会等の他の職種の似たような部門と連携をとって活動してみてもどうでしょうか

各都道府県の現状や活動内容が知りたい。

これから結婚し家庭を持って仕事を続けていく女性会員へのアドバイスがほしい。

仕事と家庭の両立において受け入れ態勢の処遇が看護等と差があるケースが多々あるので看護等と同等の処遇が受けられる施設があれば教えてほしい

女性会員の増加、若い会員の結婚・出産にともない今後問題になって来ると思う。

進んでるところの事例やどのような活動をしているのか情報がほしい。

産休や育児時の補充が可能ないように人材派遣システムを構築してほしい。

他の学会ではこの様な取り組みはしているのでしょうか？しているのであれば情報がほしい。

できることが何なのか検討したい。

当技士会でも女性の技士について色々考えているので、情報がほしい

図 11 その他の意見

都道府県)，“いいえ”77% (36 都道府県)であった (図 6, 図 7)。

問 5, 問 4 で “はい” と答えた技士会においては、どのような活動を行っていますか？では、アンケート調査、親睦会などのコミュニケーションの場を設ける、広報活動の順に多く、次いで相談窓口の設置、学会や研修会での託児ルームの設置、WS や SY・講演会の企画であった (図 8)。また、都道府県別に活動項目数を比較すると、栃木県、千葉県^{4, 6-11)}、東京都^{3, 12, 13)}、群馬県の順に多く主に関東地区での活動項目数が多かった (図 9)。

問 6, 女性部会等の女性のみの組織はありますか？では、“はい”が 2 都県、“いいえ”が 43 都道府県であった (図 10)。

その他の意見では、他の都道府県や事例などの情報が欲しいという意見が多かった (図 11)。

IV. 考察

今回の 47 都道府県技士会対象のアンケートの結果、男女共同参画の活動を「行っている」が 21%、「行っていない」が 77% と多くの技士会で活動を行っていない結果であった。その理由として、正会員の女性の割合が 24% に対し、女性の理事が 6.8% と少ないこと、両立の活動に対するニーズを把握していないという意見が得られた。

しかし、H19, H21 に当会 Y・ボード委員会が、

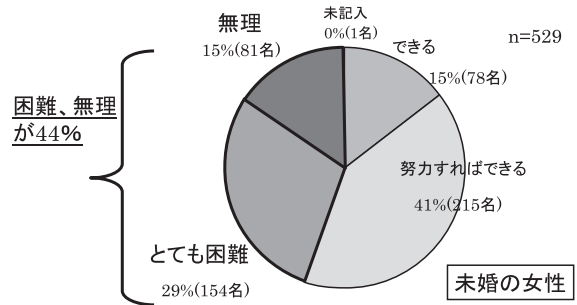


図 12 現在の勤務先は、仕事と家庭（育児）を両立できる環境だと思いますか？（会員）
H.19.12 “組織力向上”のための 20～30 歳代の臨床工学技士（若手会員）の意識調査結果 より

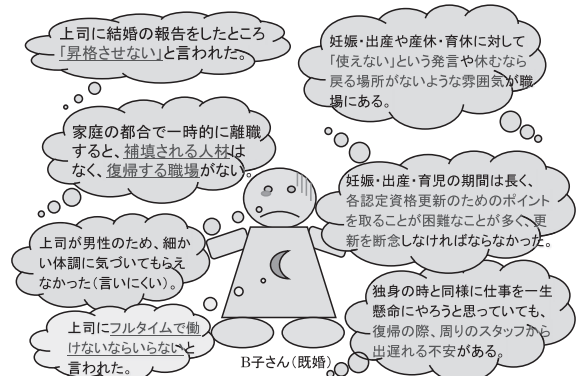


図 13 その他の意見（現状、訴え）（会員）
H.21.12 “次なる臨床工学技士像を目指して”アンケート結果 より

会員に対して行ったアンケートのうち“仕事と家庭の両立に対する設問の回答では^{2, 14)}、男女ともに“レベルアップを目指し、子供ができて仕事も続けたい”が最も多かったが、「現在の勤務先は、仕事と家庭（育児）を両立できる環境だと思いますか？」の問いにおいて“困難、無理”が 44% を占めるなど、現状では自らの望むライフスタイルの実現が困難な現状が明らかになった (図 12)。更に、自由記述欄では「勤務時間の調整はしてもらえず、給与・ボーナスは大幅カット、最終的には強制退職」「職場にある託児施設には医師・看護師しかあずけることができない」「上司に結婚の報告をしたところ“昇格させない”と言われた」「上司にフルタイムで働けないならいらないと言われた」などの意見が聞かれた (図 13)。また、男性からは“育児休暇がとりにくい”“育児のために定時に帰りたい”などの声も聞かれた。更に、技士会へ期待することとしては、育児休暇制度や託児室設置に関することや指針の策定と冊子の作成等が多かった (図 14)。

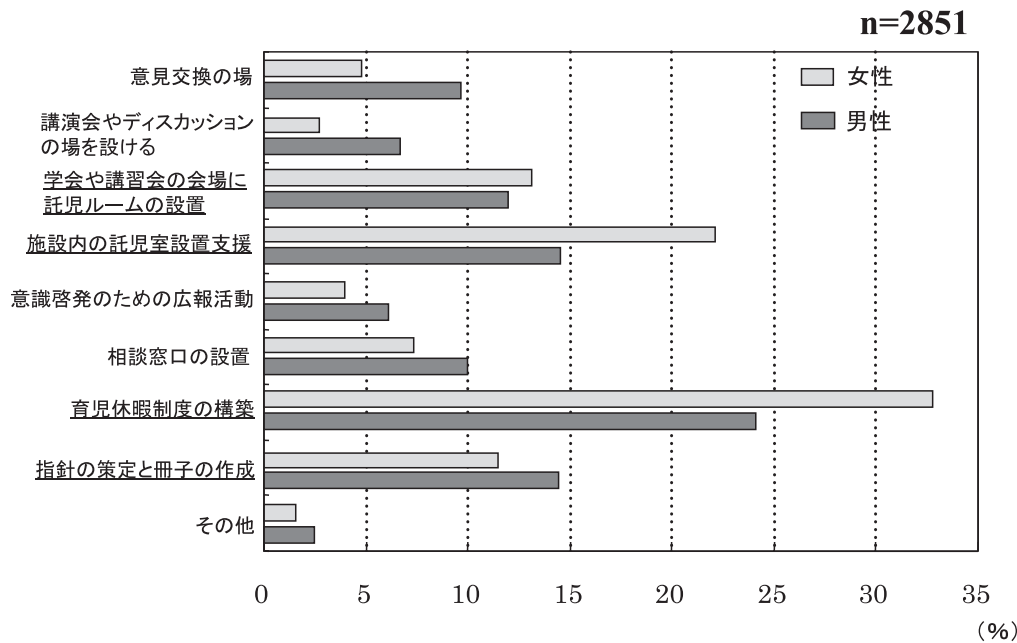


図 14 仕事と家庭の環境整備のために技士会へ期待する事 (会員)
H.21.12 “次なる臨床工学技士像を目指して” アンケート結果 より

V. 今後の展望

会員のニーズとしては、育児休暇制度や託児室、指針の策定など両立に対する具体的な支援（男女問わず）を望んでいる割合が多かった。これに対しては、引き続き学会会場などの託児室設置を行うことや、育休後の再研修および再就職支援制度の構築を目指す必要があると考える。更に、技士会における男女共同参画の活動の情報収集の場として、当会HPへ各技士会の活動に関する文献を掲載するなどの活動を行うことや、日臨工および都道府県技士会における女性の役員（委員）の登用の推進を行う必要もあると考える。また、近い将来我が国では超高齢化社会になることが推測されていることから、育児世代と併せて高齢者の雇用支援も視野に入れた活動を行うべきと思われる。

【参考文献】

- 1) 守澤隆仁, 熊切こず恵, 岩崎共香, 出口英二他: 「組織力向上のための20～30歳代若手会員の意識調査アンケート結果と小冊子“若手会員への提起”発行の経緯」. (社)日本臨床工学技士会誌 37: 164-167, 2009
- 2) 熊切こず恵, 守澤隆仁, 岩崎共香, 出口英二他: “組織力向上”のための20～30歳代の臨床工学技士(若手会員)の意識調査—仕事と家庭の両立に関する調査結果報告—. (社)日本臨床工学技士会誌 37: 168-170, 2009
- 3) 開発あやこ: 女性技士に対する東京都臨床工学技士会

としての取り組み. (社)日本臨床工学技士会誌 37: 171-173, 2009

- 4) 熊切こず恵, 関根広介, 伊橋 徹, 内野順司, 三浦國男, 松金隆夫: 仕事と家庭の両立について—千葉県臨床工学技士会の取り組み—. (社)日本臨床工学技士会誌 37: 174-176, 2009
- 5) 岩本ひとみ: 育児と仕事の両立. (社)日本臨床工学技士会誌 37: 177-179, 2009
- 6) 熊切こず恵, 堀井宏志, 林 勝美, 本吉 等: 「仕事と家庭についてのアンケート」結果. 千葉県臨床工学技士会誌 11: 32-38, 2005
- 7) 熊切こず恵, 本吉 等, 小澤賢一郎: 「仕事と家庭の両立に関する相談窓口」設置について. 千葉県臨床工学技士会誌 12: 55-56, 2007
- 8) 熊切こず恵: 「両立指標」の調査結果. 千葉県臨床工学技士会誌 13号: 62-70, 2007
- 9) 熊切こず恵, 伊橋 徹, 内野順司, 三浦國男, 松金隆夫: 仕事と家庭の両立について—千葉県臨床工学技士会の取り組み—. (社)日本臨床工学技士会誌 31: 134-136, 2007
- 10) 座談会: 「女性技士の集い」. 千葉県臨床工学技士会 めでいかるえんじにあたり特集号, 2003
- 11) 熊切こず恵: 調査員委員会からの報告. 千葉県臨床工学技士会 めでいかるえんじにあたり 28: 3-4, 2007
- 12) 座談会: 女性技士が“本音”で迫る結婚・出産・技士会. 東京都臨床工学技士会誌 12 (1): 2001 August
- 13) 座談会: 「医療分野に勤務する女性の職場生活と家庭生活の両立を考える」. 東京都臨床工学技士会誌 19 (1), 2008
- 14) 熊切こず恵, 守澤隆仁, 岩崎共香, 出口英二他: “次なる臨床工学技士像を目指して”アンケート結果報告. (社)日本臨床工学技士会誌 40: 33-39, 2010